

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

2013~2014年度 国際ロータリーのテーマ
ロン D.バートン

RI第2510地区 **留萌ロータリークラブ**

会報

2013 ▶ 2014
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ 会長目標 **集中と調和**

会長／中出敏彦 幹事／大嶋孝広

プログラム

- 本日
来賓卓話「ことしの留萌」
留萌市長 高橋 定敏 様

- 会員誕生日
2月7日 高田 潔
2月8日 鵜城 善輝

- 次週予定
「情報集会発表」

No. 2592
第29回 2月5日

出席報告

前例会

会員総数……………41名
出免会員……………8名
出免出席……………5名
基準会員出席……………21名
出席率……………70.27%

前々々会

第26回 1月15日

欠席会員……………10名
内メイクアップ……………4名
修正出席率……………83.78%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告 ……………

1. 留萌青年会議所の「新春の集い」出席に対し、礼状をいただきました。青年会議所の59代理事長は、当クラブの関野会員のご子息です。

📠 幹事報告 ……………

- 国際ロータリー第2510地区より、2013年度手続要覧日本語版の電子ファイルが国際ロータリーのウェブサイトに掲載されたとの連絡がありました。ご覧になりたい方は、幹事まで連絡いただければリンク先を教えます。

📺 3分間情報 ……………

会員研修委員会 鵜城委員
「ラインについて」

皆さん、ラインをご存知でしょうか？ラインと聞いて、パイプラインとか、はたまたボディライン？などと、頭に浮かんでニヤリとした方は、時代に追いついていないのかもしれませんが。

つい2~3年前まではその様な連想もありだった訳ですが、今やラインと言えばスマートフォン同士で、無料通話やメールをする事が出来るアプリの事を指す時代となりました。

アプリって何？と思われた方は、パソコンで言うワードやアクセルなどのソフトとお考え下さい。

このラインというアプリは、ユーザー同士であれば国内や海外、通信会社を問わず、音声通

話やメッセージの交換を無料で利用する事が出来る為、2011年6月のサービス開始からわずか2年半で利用者数が、世界で3億人を超え、今年中には5億人に達するであろうと言われてい
ます。ラインが飛躍的に伸びた要因としては、無料で通話やメールが出来るなどの他にも、さまざまな魅力がある訳ですが、皆さんにお伝えしたいのは、このアプリが日本人技術者によって開発されたという事なのです。母体の会社は韓国のIT企業なのですが、日本において企画され、日本の技術者によって開発された、まぎれもないメイドインジャパンの技術であり、現在においても、100人近い開発チームの7割は日本人であることから、世界的にも日本製として認識されています。

ラインは、日本が弱いとされるネット分野において、グローバル化された稀なケースですが、今やかのフェイスブックやツイッターを超えるかの勢いで、世界中に広まっています。今後皆さんが利用する、しないに関わらず、日本人の手によって開発された技術であるという観点で、ラインの広がりを目撃して戴ければと考え、情報提供させていただきました。

ちなみに、私は携帯電話を落とした際に、A Uショップの定員さんに勧められて、スマートフォンにはなっておりますが、操作などの知識はほとんど持ち合わせておりませんので、ご質問には一切お受けできません事を、ご承知ください。

 **ニコニコBOX**

・新聞に写真が載りました。 西谷(恭)会員

前 回	568,000円
今 回	2,000円
累 計	570,000円

 **プログラム**

「年男大いに語る」

清水 陸 会員

自分では71歳になっている自覚はまったく無いのですが、だんだん外堀を埋められて、高齢者のレッテルも認めざるを得ません。さて、午年の午について話をしてみます。「馬の鼻向け」古く旅立つ人の道中での無事を祈り、その乗馬の鼻を旅行く方向へ向けて、旅立つ人の前途を祝福して行く送別の酒宴、または贈り物を言う。

「馬印」、戦陣で総大将、侍大将の馬の側に立て威厳をつけて所在を示す事は戦国時代に始まる。織田信長は、黄絹に永楽銭。豊臣秀吉は、金の印割に千生瓢箪(せんなりびょうたん)。徳川家康は、七本骨の金扇に日の本の馬印であった。

横道にそれますが、私の好きな言葉「一所懸命」がありますが、この事は司馬遼太郎の「この国のかたち」に書かれていましたので意味を考えて見ました。平安初期の関東平野は律令制の特例が設けられ、開墾して田を作れば私有が認められ、しかも租税を納めなくても済んだ事により、力のあるものがどんどん開墾し、貴族や寺社に寄進し、特例の私有を合法化し陰に回って経済権だけを握った。つまり武士の発生である。武士は命懸けで私有地を守らなければならなかった。一所(いっしょ)に命を懸ける「一所懸命」となります。

この頃、甲冑は単なる防御用ではなく、目的を越えて華麗であり自分を表現する物に変わっていきます。戦場でいちいち名乗りをあげるようになったのも、自分は他と違うということの呼びかけであった。もっとも何が違うかといえ、潔さが違っていった。この潔さの形式が鎌倉末期に蒙古の襲来によって碎かれてしまいました。

戦の開始が儀式化されていて、まず大将がかぶら矢を双方から射て合図をして、互いに名だたる武将が進み出て、堂々の一騎打ちをする。後は入り乱れ戦をする。一騎打ちまでは重要な儀式であった。蒙古軍が博多湾に上陸し、九州

武士が迎え撃つ。日本の総大将は29歳の少武景資(かげすけ)であった。彼は型どおり手の者12名を引きつれしずしずと進み出、名乗りをあげ、敵の名だたる一騎が進みでてくるのを待った。箭合(やあはせ)為トテ小鎧(こかぶら)ヲ射出タリシニ、蒙古一度ニドット咲(わらい)、太鼓タタキ、ドラを打て、時作ルオビタダシサニ、日本馬共、驚躍シテハネ狂フ…(太鼓を打、ドラを打、大型の手榴弾を投げ、轟音を上げ破裂させた)進み出た騎馬武者を大勢で取り囲み押し潰した。

この事より、日本の戦法が大きく変化し、足軽という歩兵が重視された。

以上、お後がよろしいようで。

阿部 洋一 会員

年男大いに語る。馬、ということですが、ものごころついたころには車になっておりましたが、私の会社も創業時は一緒に仕事をしていた仲間であって、会社の土台は馬とともに築いたということのようです。馬の絵や写真が会社や家に飾ってあって妙な親近感もっていたものの、先代の社長や私の父から浜で馬に乗っている写真を誇らしげに見せられた時にはコメントに困った記憶があります。

馬に関する小ネタは隅から隅まで森さんから紹介していただいたので、特に今日話すことはありません。というか、残ってませんでした。ひのえうまに関する説明も先々週のお話のとおりです。丙午の当事者として、少しだけ付け加えさせていただくと、出生率が前年比25%減とありましたが、留萌小学校・港南中学校では他の学年は7クラスあるのに、私の学年だけ5クラスで、当初は丙午のそんな事情を知らず不思議に思った記憶があります。ただ、当の本人たちは人口が少なかつたおかげで受験や就職の競争率もきもち下がっていたりするので、まったく気にしていません。それにバブル絶頂期に大学で遊び盛りの時代を過ごしたので人生は楽しいことばかり、と陽気な人が多く、迷信に感謝したいくらいに思っております。

丙午生まれの性格は、気位が高くて曲がった

ことが嫌い、そして人に媚びない性格といわれているようでございます。外れてはいないような気がしてます。昔の人はこんな性格をして「じゃじゃ馬女はお嫁さんには不向き」と思われたのかなと思います。

私は丙午の年に生まれましたが、私の祖母もまた丙午生まれでした。祖母のハルさん、昨年人気のあった「あまちゃん」風に言うと、ナツばっばならぬ、ハルばっばでしょうか。観ていた人だけわかってくれればいいです。祖母が亡くなって24年経ちますが、当時のイメージは、とても強く、なによりとても優しい人で、迷信として語られるような、気性が激しく夫の命を縮めるような女性とは対極の親族中から好かれる祖母でした。それもあってか、迷信はあくまで迷信であって実際にはそのようなことはないということで、その種の不安が全くないなかで生まれたのが私のです。

ちなみに森さんのお話の中で、ひのえうまの救いとして紹介されていた(文仁親王妃)紀子様は、私とは生まれ年も誕生日も同じでして、全く同じ日に生まれております。「だから何?」と言われそうで、ひとり密かに喜んで誰にも話すことなく過ごしてきましたが、いつかどこかで言っておきたかったので、このような機会でも言わせていただきました。充分わかっておりますので、くれぐれも「だから何?」と言うのは無しでお願いいたします。

個人的なお話をさせていただきます。午年を迎えて、新たな12年を迎えるにあたって思っていることをお話ししていきたいと思っております。

ロータリークラブに置きましては、今年度から会員研修委員会の委員長として活動させていただいております。取り組みのなかで、新会員のオリエンテーションも情報集会后半に実施することになっているので、前半は実質3分間情報のみの活動でした。ようやく半分終わったところで思うのは3分の長さをなめていた、ということです。会員研修とあるからには、皆様の前で話した内容について質問されたら、応えられるようになってから話すとして自分には課してやっているので、集められるだけの資料を集め

て一度頭を整理して原稿を書き始めるため、思っていたより時間がかかっております。最初は前日に原稿まとめをしていましたが、最近では1週間の準備期間が必要な状況となっております。中盤超えたばかりだということに、ネタが枯渇してきておまして毎回絞り出すように考えているところであります。まずは良くも悪くも最後までやり遂げることが大事と思っているので、やり方については路線変更なしで最後まで遂げたいと思っております。

そして、7月になるとどうやら親睦活動委員会になりそうで、非常に重たく受け止めている最中です。話があってから高田委員長率いる今年度の親睦活動委員会の仕事ぶりを見るにつけ、自信を無くしている今日この頃でございます。入会以来親睦活動委員会で3年つとめ、ようやく卒業できたというのに、また戻されたという感覚でおりますが、会員数減少の影響がモロに現れて、単純に人数不足であり、本当に委員会だけでは何をすることも人数不足であることは明白なので、皆様のご協力をいただく努力をしていきたいと考えておりますので、宜しく願い申し上げます。

仕事に関しては、まずは普通の会社を目指して長い目で少しずつ前進させなきゃいけないと腹をくくっております。社内の愚痴は話し出すと止まらないし、皆さんの前で話すことに支障があることも多いので、これだけにしておきます。

48歳から次の午年までの12年間は、サラリーマン時代の感覚でいうと、これまで重ねた経験、培ったノウハウ、磨いた知恵を駆使して、会社にも、社会全体にもさらに大きな影響を与えていく、まさに集大成の年代だと思っております。努力次第で体力を保つギリギリの年代であると認識して、可能な限り体力の減退に抗ってみたいと思っております。

留萌での経験はまだ浅いものの、若手だ中堅だと言われてニヤニヤしてられるような年齢ではないとも思っております。前の午年から今年までの間に、私自身大きな環境の変化がありました。仕事で絡みのある各協会、同業者、

お客様、そしてロータリークラブの皆様のおかげで地域の事情についても少しずつ理解できてきていると感じております。ローカルルールが異常に多く、時間がかかりましたがようやく自分のやり方でスタートできるようなころづもりが出来たかなと思っております。

体に関しては、現在2か月ごとに検査のため通院しておりますが、検査内容は、高血圧、中性脂肪、コレステロールに脂肪肝と、言っちゃいますけどデブ病の患者です。お医者様からは全部の症状は痩せるほどに良くなると言われてはや2年。痩せる兆候も見えておりません。せめてプールが近くにあったらなあとか、冬には今日はすごく寒いなあ、夏には夏で、熱中症が心配だなあ、と自分への言い訳は次から次へと浮かんできますが体はいっこうに動かない毎日です。

私のここまでの人生において、高校・大学での経験もありますが、なんといっても前の会社で得た経験が私の大きな部分を構成していると感じておまして、その中でも私が入社する1年前に亡くなって会うことのなかった、創業者松下幸之助さんの残された言葉に先を照らされながらここまで進んできたような気がします。

松下幸之助創業者は、生前、大阪ロータリークラブに所属されておりました。ロータリーの趣旨である「奉仕」やその精神に共鳴されて、出かけるときは必ずロータリーバッヂを襟に着けられていたということです。人を思いやり、人のことを考えることに関心の高い人で、自分のことについてはあまり関心のある人ではなかったようで、ロータリークラブの精神に通じるところが多くあったのでしょう。私自身そのおかげで、ロータリークラブの考え方を違和感なく受け入れられているのかな、と思えます。

最後に松下幸之助さんの言葉で私が好きなものを挙げてみたいと思えます。

(次週につづく)